

令和4年酒田港の取扱貨物量について（速報値）

概 要

酒田港の令和4年取扱貨物量は、外貿貨物（輸出入）が2,096,720トン（前年比-7.3%）、内貿貨物（移出入^{※1}）が993,638トン（前年比+2.4%）、全貨物量が3,090,358トン（前年比-4.4%）となった。

コンテナ貨物量（実入りコンテナ）は、輸出入合計が13,763TEU^{※2}（前年比-26.1%）となった。また、コンテナ取扱個数（空コンテナ込）は、輸移出・輸移入合計が22,030TEU（前年比-28.8%）となった。

リサイクル貨物量^{※3}は、輸移出・輸移入合計が424,140トン（前年比-6.0%）となった。

酒田港国際ターミナル

令和4年取扱全貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料-1

令和4年コンテナ貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料-2

令和4年リサイクル貨物量^{※3}の概要

- ・・・別紙参考資料-3



※1 「移出」：貨物を国内の他の地域へ送り出すこと。「移入」：貨物を国内の他の地域から移し入れること。

※2 「TEU」：20フィートコンテナ換算のコンテナ取扱量の単位。40フィートコンテナ1個は2TEU。

※3 平成15年に酒田港は、国土交通省から、生産や消費活動で排出されたものの輸送の拠点となる総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の指定を受けた。

令和4年取扱全貨物量の概要

取扱全貨物量については、グラフ1のとおり、外貿貨物が2,096,720トン（前年比-7.3%）、内貿貨物が993,638トン（前年比+2.4%）、合計が3,090,358トン（前年比-4.4%）となった。

上位5品種については、表1のとおり、「窯業品」、「セメント」が増加したが、「石炭」、「揮発油及びその他の石油」、「木材チップ及び薪炭」は減少した。

「石炭」が全体の55.2%を占めており、また、上位5品種で酒田港全貨物量の79.5%を占めている。

グラフ1 過去5年間の全貨物量の推移

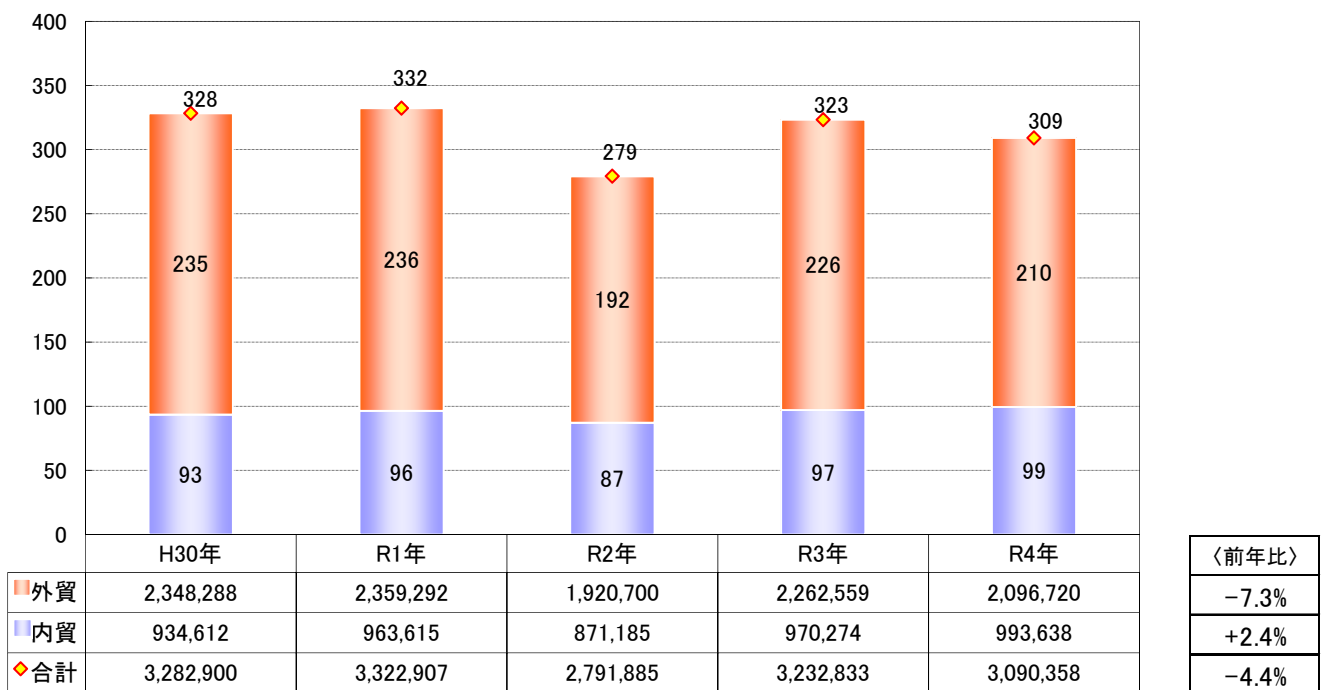


表1 主要品種別の貨物量の推移

品 種	H30	R1	R2	R3	R4	割合	前年比 R4/R3
石炭	1,807,082	1,804,036	1,449,986	1,783,713	1,706,517	55.2%	-4.3%
揮発油及び その他の石油	383,075	367,731	330,869	326,517	311,503	10.1%	-4.6%
窯業品	163,140	176,837	131,619	188,847	198,058	6.4%	4.9%
セメント	120,594	113,211	143,345	118,547	128,627	4.2%	8.5%
木材チップ及び 薪炭	88,909	130,510	106,153	121,566	112,287	3.6%	-7.6%
その他	720,100	730,582	629,913	693,643	633,366	20.5%	-8.7%
合計	3,282,900	3,322,907	2,791,885	3,232,833	3,090,358	100.0%	-4.4%

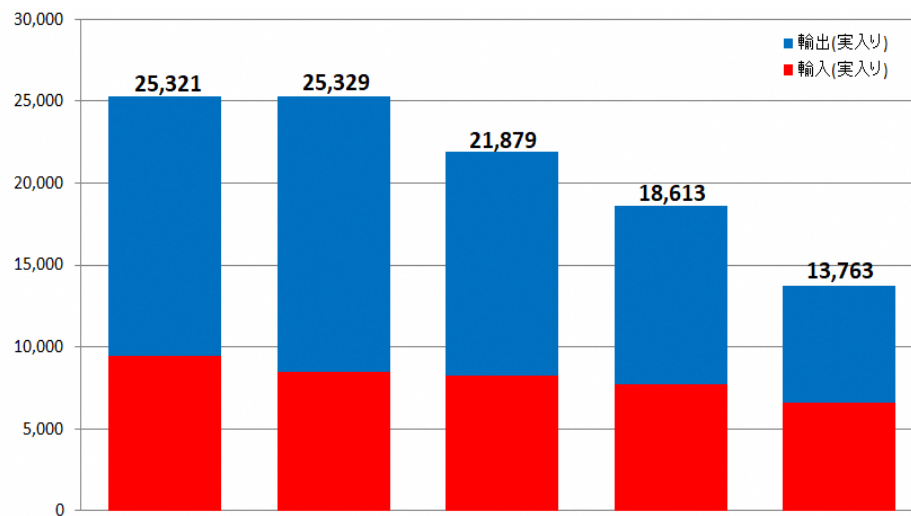
令和4年コンテナ貨物量の概要

コンテナ貨物量（実入りコンテナ）については、グラフ2のとおり、輸出が7,184TEU（前年比-34.1%）、輸入が6,579TEU（前年比-14.7%）、輸出入合計が13,763TEU（前年比-26.1%）となった（コンテナ取扱個数（空コンテナ込み）については、【参考】のとおり）。

品種別では、表2のとおり、輸出量上位5品種では「電気機械」が増加し、「その他日用品」、「再利用資材」、「その他製造工業品」、「自動車部品」が減少した。輸入量上位5品種では「化学薬品」が増加し、「木製品」、「製造食品」、「自動車部品」、「紙・パルプ」が減少した。

グラフ2 過去5年間のコンテナ貨物量の推移

（単位：TEU）



種別	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	〈前年比〉	
実入りコンテナ	輸出	15,848	16,823	13,634	10,897	7,184	-34.1%
	輸入	9,473	8,506	8,245	7,716	6,579	-14.7%
	合計	25,321	25,329	21,879	18,613	13,763	-26.1%

【参考】 コンテナ取扱個数（空コンテナ込み）

種別	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	〈前年比〉	
空コンテナ	輸移出	4,860	3,458	4,864	4,395	4,424	+0.7%
	輸移入	11,070	12,313	9,275	7,938	3,843	-51.6%
空コンテナ込合計	41,251	41,100	36,018	30,946	22,030	-28.8%	

（単位：TEU）

表2 主要品種別のコンテナ貨物量の推移

（単位：TEU）

品 種	輸 出						前年比 R4/R3	品 種	輸 入						前年比 R4/R3
	H30	R1	R2	R3	R4	H30			R1	R2	R3	R4			
その他日用品	13,448	14,400	11,488	8,990	5,545	-38.3%	木製品	971	909	894	1,048	924	-11.8%		
再利用資材	664	554	390	410	254	-38.0%	化学薬品	701	629	655	716	738	+3.1%		
その他製造工業品	360	437	328	299	250	-16.4%	製造食品	1,005	968	927	906	622	-31.3%		
自動車部品	264	276	264	297	194	-34.7%	自動車部品	462	497	599	629	622	-1.1%		
電気機械	197	234	192	163	172	+5.5%	紙・パルプ	1,310	1,070	732	706	502	-28.9%		
その他	915	922	972	738	769	+4.2%	その他	5,024	4,433	4,438	3,711	3,171	-14.6%		
合 計	15,848	16,823	13,634	10,897	7,184	-34.1%	合 計	9,473	8,506	8,245	7,716	6,579	-14.7%		

※四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが、合計と一致しない場合がある。

令和4年リサイクル貨物量の概要

リサイクル貨物量については、グラフ3のとおり、合計で424,140トン（前年比-6.0%）であった。

リサイクルポートに指定された平成15年の196,821トンと比較すると約2.2倍となっている。

品目別では、表3のとおり、「石炭灰」が増加した。

グラフ3 リサイクル貨物量の推移

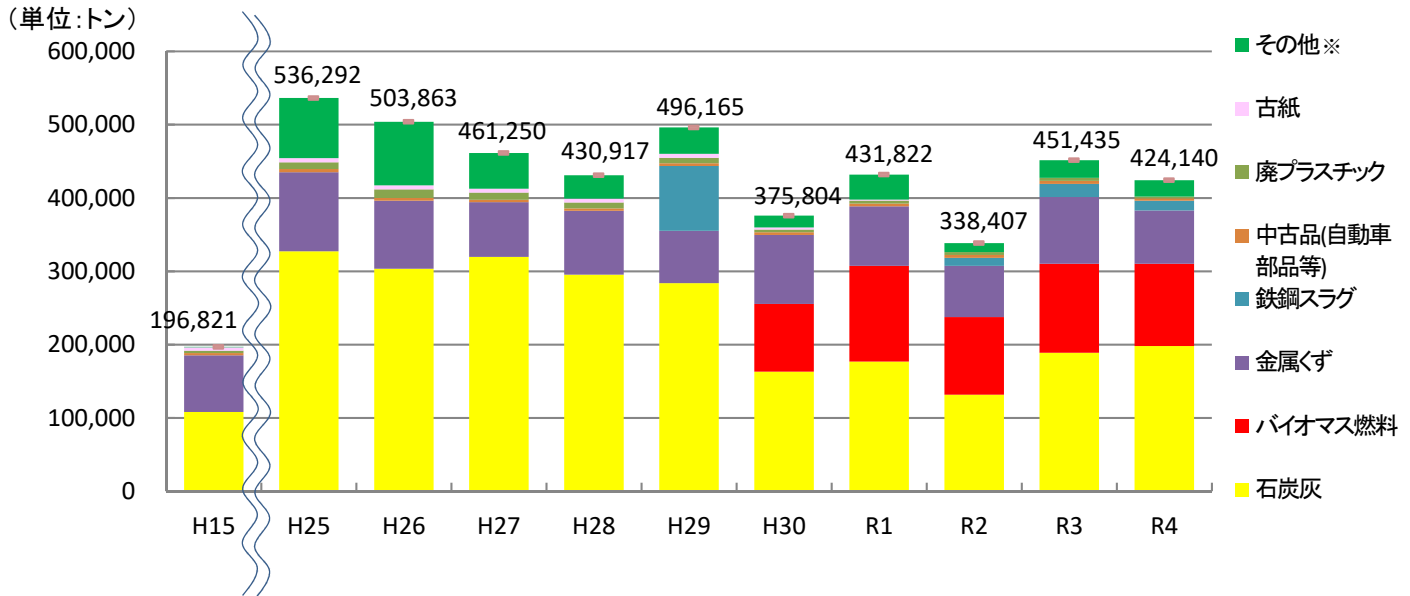


表3 主要品目別のリサイクル貨物量の推移

(単位:トン)

主要品目	H15	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	前年比 R4/R3
石炭灰	107,963	327,295	303,490	319,513	295,305	283,834	163,094	176,811	131,581	188,800	198,037	+4.9%
バイオマス燃料	0	0	0	0	0	0	92,335	130,454	105,837	121,450	112,194	-7.6%
金属くず	77,430	107,852	92,709	74,657	87,188	71,360	93,968	81,283	69,873	90,884	72,626	-20.1%
鉄鋼スラグ	0	0	0	0	0	88,375	0	0	11,000	18,060	13,360	-26.0%
中古品(自動車部品等)	2,948	4,166	3,636	3,420	3,142	3,601	3,766	3,626	3,940	4,030	3,160	-21.6%
廃プラスチック	3,260	9,300	11,876	9,658	8,180	7,500	3,720	4,320	3,840	4,100	2,540	-38.0%
古紙	4,560	5,620	5,340	5,360	5,200	5,580	2,860	1,220	0	0	0	-
その他※	660	82,059	86,812	48,642	31,902	35,915	16,061	34,108	12,336	24,111	22,223	-7.8%
合計	196,821	536,292	503,863	461,250	430,917	496,165	375,804	431,822	338,407	451,435	424,140	-6.0%

※その他：廃土砂など